第5回「若い力を大切に！」

滝沢マサ子さん　小林文子さん

鴨台盆踊りを盛り上げていくヒントを聞いてみました！

大正大学と大正大学の学生が、地域の方と連携して活動をするために必要なことは何かを探る連載「**おうだい３meets**」。第5回目は、これまでの鴨台盆踊りでのエピソードやそれを通じての大正大学の印象など、これまで11年鴨台盆踊りで着物の着付けをお手伝いしてくださっている瀧澤マサ子さんと、大正大学のオープンカレッジに参加し、鴨台盆踊りにも2年関わってくださっている小林さんと担当教員の塩入先生にお話をうかがいました。

お話しいただいた人

滝沢マサ子さん

大正大学で塩入先生が開いている仏教の講座（オープンカレッジ）を昔から受講し、11年前に塩入先生から頼まれる形で鴨台盆踊りの着付けを手伝うようになった。趣味は歌うこと。

小林文子さん

同じくオープンカレッジを通じて鴨台盆踊りにかかわるようになった。お写真が苦手なようなので今回は顔写真非公開。

趣味は粘土での仏像彫刻と読経。

塩入法道先生

仏教学部仏教学科教授。第1回の盆踊り（みたま祭り）から現在まで総合プロデューサーとして関わっている。

インタビュアー

竹ノ谷広輝

大正大学人間学部教育人間学科4年。

趣味はギター。成人してから、なぜか太った。

相良隼斗

大正大学人間環境学科3年。

趣味は高校野球観戦。Web広報班のリーダーとして頑張っている。

1. 地域の人々のつながりの希薄化

本日はよろしくお願いします。お二人にとって、地域を巻き込んだ盆踊りなどのお祭りを開催するための課題は、何だと思いますか？

少子高齢化の影響もあるのだろうけど、若い人が少ないことですね。東池袋にあるうちのマンションは550世帯あるんですけれどそのうちお祭りを企画するような町会に加入している方はたったの15名で、それもすべて高齢者なんですよね。ほかの人たちは町会に入って何の利点があるのかという感じで。

なるほど、メリットを求めてしまうんですね。

そう。なので、我々の時代とは違うなあって思いますね。

人と人とのつながりが希薄になってしまっているんでしょうか。

今後は伝統を守りつつも若い人たちの興味を引くことが肝要ですね。コロナ禍の前は幼稚園児がたくさん来たりして、それがすごいうれしかったです。私が参加し始めたころはほんとに人が少なかったので、そこから先生のご尽力で年々参加者が増えてますよね。
ここ2年はオンラインでの開催になってしまったけれど、なによりも、**続けていくこと、絶やさないことが大事**だと思います。

今年の11月までには全員のワクチンの接種が完了するっていうから、来年は大丈夫なんじゃないかと思っています。

来年からはまた、対面で出来たらうれしいです。

2.　鴨台盆踊りは・・・

では、続いてこれまでの鴨台盆踊りに関わってきた経験を通しての、鴨台盆踊りの印象などを教えてください。

やっぱり毎年すごく楽しくて、とても良い印象が残っています。フリーマーケットをやっていましたよね。

各学科から出店をしていた頃は、3号館1階でフリーマーケットみたいなのもやってましたね。

最後のほうになると売れ残ったものが100円で売っていて、いろいろ買って自転車に積んで帰った思い出があります（笑）。

そんなにたくさん買ったんですか（笑）。

だって安いんですもの。下手すると10円とかのもあったかもしれない（笑）その時買ったバッグを今でも娘が使っているので、かなりお得でしたね。

このコロナ禍の状況では難しいかもしれないですけれど、またそういう企画があったらいいですよね。

あとは、女性の学生の参加者が増えてきたときですね。あなたがたのお母さんの世代でもふだん着物着てらっしゃらない方が多いでしょう？

そうですね。着物といえば晴れ着っていう感じですね。

だから着物に何を使うかというのがわからないので、必要な小物類をそろえてこない方がけっこういらっしゃるんですよ。一昨年には帯を持ってきていない学生がいました。

それは大変ですね（笑）　着つけられない。

誰も余分な帯なんて持ってないんです。「あなた何着てきたの？」って聞いたらワンピースと言うので、その子の着てきたワンピースを帯の代わりにして着つけてあげました。

すごい！そんなことできるんですね。

そしたら、ほかの学生さんたちが「そっちのほうがいいね」って。確かにワンピースだからすごく面白く帯が引き立ったのよね。たまたまロングのワンピースだったので、ちゃんと回ってよかった（笑）。

成人式みたいに必需品を全部リストアップした紙とか配るのも手ですが、案外一回着たら覚えると思います。

着付けの他に、お手伝いをしてくださっていることはあるんですか？

塩入先生のオープンカレッジという、100人以上の人数が受講してる場で鴨台盆踊りのチラシを配ったりしましたね。

宣伝もしてくださってたのですね。ありがとうございます。

お手伝いではないけれど、着付けが終わったら皆さんと一緒にやぐらを囲んで踊ってました。使用している曲のほとんどがアップテンポなので、楽しいですよね。

やはり、盆踊りの最大の楽しみは踊ることですね。

3.　地域からみた大正大学

では、鴨台盆踊りに関わってきた中で、大正大学に抱いたイメージを教えてください。

もともとすごく良い大学だと思っていましたよ。こんなに地域と親密な大学ないですから。コロナ禍の前は、毎月第三土曜日に花会式という仏教行事をやっていて、法話を聞いた後に、集まった地域の人たちとお話したりしてね。やはりこの地域ってお年寄りの方が多いじゃないですか。

そうですね、多い印象があります。

お年寄りの方ってだれかとお話ししたい、という方が多いんですね。行事のない日でも、さざえ堂のお参りとかで大正大学に来られる方も多いぐらい、地域の方々の憩いの場みたいになっていると思いますね。どなたでも来てお話しできる、学生じゃなくてもすごく入りやすい大学というか、いい意味で庶民的な大学で良いなあと思いますね。

コロナ禍でもさざえ堂は解放されているから、私も月に一度は必ずお参りに来ています。

大正大学すがも鴨台観音堂（さざえ堂）

4.　子どもたちが楽しめる盆踊りを目指して

最後になりますが、これからの鴨台盆踊りに期待していることを教えてください。

最初に言った、若い人が来てくれないとお祭りって衰退していっちゃうんです。だから、若い人が喜んでくれるような、特に子どもたちの心に残るようなワクワク感があればずっと続くと思いますね。極端な例を言うと、雑司ヶ谷の鬼子母神のお祭りは地元を出て、毎年遠くに行った人が仕事を休んで帰ってくるんですよ。そこの近くの千登世橋中学校なんかはお祭りに合わせて試験日を調整したり工夫しているんです。

すごい。ほんとに地域一体って感じですね。

子どものころから通って、生活に染みついてるんでしょうね。大人たちも同窓会みたいな感じで毎年集まっているんです。

その鬼子母神のお祭りってどんなお祭りなんですか？

もともと日蓮上人の御命日にやるお祭りで、日蓮宗のお祭りなんだけど今は地域のお祭りって感じだね。

主に何をするんですか？

みんなで太鼓をタンタカタンタカ叩いて、白い和紙の花を垂らしたおおきな万灯を掲げて練り歩くお祭りです。子供たちもみんな纏（まとい）を振りながら歩くんですよ。纏ってあの江戸時代の火消しが掲げてたみたいなものです。

鬼子母神御会式の様子

画像左で振るわれているのが纏（まとい）

それをやると学校でも特別になれるんでしょうね。勉強ができなくても、「あいつは纏を振れるぞ」というようなね（笑）。

多分、運動会で一等賞取るような感覚と一緒なんだと思います。

なるほど、お祭りに出ると自慢できるんですね。鴨台盆踊りも、今後は子供たちが主役として目立てるようなこともしていけるといいですね。

あとは流行りのNiziUとかの楽曲を使って若い人向けの、キャッチーな盆踊りを取り入れてみても良いのでは？

そうですよね。とにかく伝統を絶やさないように、地域の人、若い人を巻き込みながら続けていってほしいなと思います。

わかりました！　地域の若い力を大切に育てていくということですね。
本日は貴重なお話をありがとうございました！

今回のインタビューでは、これまでずっと鴨台盆踊りで着付けのお手伝をしてくださっていた瀧澤さんだからこそのエピソードや、初めて知る過去の鴨台盆踊りのエピソードを楽しそうにお話しいただきました。そして、伝統を絶やさないためには、まず後の世代である子供たちが楽しめるものにしていくことが大切ということがわかりました。

記事　人間学部教育人間学科4年　竹ノ谷広輝
お話を聞いた日　2021年6月11日